

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：34416  
研究種目：基盤研究(B)（一般）  
研究期間：2017～2021  
課題番号：17H02289  
研究課題名（和文）荒川修作+マドリン・ギンズ遺稿データベース構築にもとづく天命反転思想の研究  
  
研究課題名（英文）A Study on the Idea of Reversible Destiny Based on the Construction of a Database of Arakawa Shusaku + Madeline Gins' Manuscripts.  
  
研究代表者  
三村 尚彦（Mimura, Naohiko）  
  
関西大学・文学部・教授  
  
研究者番号：10309205  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1960年代に渡米し、ニューヨークで活動した現代美術家荒川修作とそのパートナーで詩人のマドリン・ギンズ、二人の芸術活動の背景にある身体論思想を考察した。彼らの遺稿資料および関連データをデジタルアーカイブ化し、その一部はweb検索システムとして公開した。また遺稿にもとづいて、生前未発表となっていた思想内容を明らかにし、さらには二人の思想形成に影響を与えた交流関係について論じた。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

荒川とギンズの遺稿資料にもとづく研究成果は、これまでの荒川+ギンズ研究を新しい局面へもたらすとともに、現代アートと社会の関係を考察するための一つの解釈を提示したという意義をもつ。またweb上で一般公開した「荒川+ギンズの文献検索データベース」は、学術研究者のみならず、現代アートに関心をもつすべての人々に対して、荒川+ギンズの作品データやそれに関する論考へのアクセスを容易にするものである。

研究成果の概要（英文）：This study examined the body thought behind the artistic activities of Shusaku Arakawa, a contemporary artist who moved to the United States in the 1960s and worked in New York, and his partner, the poet Madeline Gins. Their posthumous manuscripts and related data have been digitally archived, and some of them have been made public on the web. The contents of their ideas, which had not been published before their deaths, are clarified based on their posthumous manuscripts, and their relationship with other researchers and their interactions that influenced the formation of their ideas is discussed.

研究分野：哲学

キーワード：荒川修作 現代アート 身体論 建築 身体

## 1. 研究開始当初の背景

現代美術家で建築家の荒川修作(1936-2010)は、1950年代後半から日本で芸術創作活動を開始する。その後、1961年単身渡米し、マルセル・デュシャンらと交流を深めるとともに、生涯のパートナーとなる詩人のマドリン・ギンズ(1942-2014)と出会い、以来、ニューヨークを拠点に活動した。荒川とギンズ(以下、荒川+ギンズと表記)は、図式絵画とテキストで構成された『意味のメカニズム Mechanismus der Bedeutung』(1971年初版ドイツ語版、日本語版は1979年)を発表、実験的哲学的な作品として高い評価を受け、1997年6月グッゲンハイム美術館で日本人として初めて個展を開催し、カレッジ・アート・アソシエーション賞を受賞する。一連の芸術表現活動から、荒川修作は1982年紺綬褒章、1988年ベルギー批評家賞、2003年紫綬褒章および第10回日本現代芸術振興賞、2010年旭日小綬褒章などを受けた。後年、荒川+ギンズは、彫刻や絵画から、インスタレーション作品を経て、「天命反転 reversible destiny」「建築する身体 architectural body」という独特の概念を提唱しながら、「建築」へとその創作活動を移行させていく。2人は、岡山県奈義町現代美術館に 遍在の場・奈義の龍安寺・建築する身体 (1994年)、岐阜県養老公園内に 養老天命反転地 (1997年)、東京都三鷹市に 三鷹天命反転住宅 (2005年)、ニューヨーク州イースト・ハンプトンに バイオスクリープハウス (2008年)を建造した。また哲学・思想書として Architectural Body(『建築する身体』2002年)、Making Dying Illegal: Architecture Against Death(『死ぬのは法律違反です 死に抗する建築』2006年)などを出版し、自らを芸術・科学・哲学を総合する「コーデノロジスト Coordinologist」と称するようになった。

荒川+ギンズの創作活動に対する研究は、従来、美術史・芸術学の視点から進められ、すぐれた先行研究が多数ある。また後年の建築作品や思想書に関しては、主に現代思想の観点から、荒川のインタビューや対談集、研究書、論文集などが出版されてきた。しかしながら、これらの研究はそれぞれ比較的独立した形で行われており、荒川+ギンズの創作活動の変遷(彫刻-絵画-インスタレーション-建築)を、芸術・科学・哲学を総合する営み(コーデノロジストの仕事)として考察することは、ほとんどなされてこなかった。

また、荒川は2010年に、ギンズは2014年に亡くなり、彼らが遺した作品や資料(未公開原稿、書簡、スケッチ、録音記録、研究ノートなど)は、ニューヨーク荒川+ギンズ財団(Reversible Destiny Foundation、以下RDFと略記)および荒川+ギンズ東京事務所が、保存、管理していた。絵画作品の調査や修復は継続的に行われていたが、特に哲学思想に関係する資料については、簡単なラベルを付された箱に詰められた状態で、遺稿研究が困難な状態であった。

以上が、本研究開始当初の状況であった。

## 2. 研究の目的

荒川+ギンズは、上記のように、彫刻や絵画から建築へと創作活動を拡張し、さらには哲学者や自然科学者との交流によって独自の哲学を提唱した。最終的に彼らの活動は、芸術・科学・哲学を総合する試みとして、人間変革、社会変革を目指すものとなっていった。それは、「人間は必ず死ぬ」という「天命」を反転する(死なないものにする)という主張であり、それを通じて、人々が確信している価値観を疑い、本当に生きやすい社会や環境を模索する試みだった。

一見、芸術家に特有の荒唐無稽なアジテーションにも思える荒川+ギンズのこうした主張は、いかなる経緯によって構想されたものだったのか。この問いは、これまでの荒川+ギンズ研究においては主題的に議論されてこなかった。本研究は、荒川+ギンズの遺稿資料をデジタル化して、データベースを構築し、その資料を手がかりに荒川+ギンズの活動に照らし合わせて、彼らの独特な身体論と哲学思想を考察することを目的とする。

このデータベース構築によって、遺稿研究が実質的に可能となり、また広く彼らの思想形成過程が開示されることになる。荒川+ギンズが建造物や思想書を構想する際に、いかなる思想的な影響(哲学、自然科学)を受けたのかを検討する。それを通じて、荒川+ギンズが天命反転思想を唱えるに至った経緯、および彼らの思想の学際的な多面性を明らかにする。非現実的な夢想とも受け取られる天命反転思想に、荒川+ギンズは何を求めていたのか、21世紀を生き、22世紀へ向かって進んでいくわれわれは、そこにどのような可能性(特に新しい身体論の枠組みに関する可能性=22世紀の身体論)を見いだすことができるのか、という問いに一定の解答を与え、荒川+ギンズ研究を前進させるとともに、芸術活動を哲学・思想・科学と総合する「コーデノロジスト」の具体像を示すことが、本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

荒川+ギンズの遺稿資料研究を可能にするという目的達成のために、本研究はRDFおよび荒川+ギンズ東京事務所と緊密な連携を取り、まずは遺稿資料のデジタル化およびデータベース構築に取り組んだ。

研究代表者と研究分担者がRDFを訪問し、遺稿利用に関する覚書を交わすとともに、遺稿資料の閲覧とデジタル化の手順に関する協議を行った。年度ごとに大まかなテーマ(心理学関係、医療関係など)区分のもと、資料のデジタル化作業をRDFに業務委託した。デジタル化された

資料は、研究代表者、研究分担者間で共有し、各自の論文執筆、研究発表に活用した。また荒川 + ギンズ東京事務所に、荒川 + ギンズの展覧会資料、関係者との往復書簡、新聞・雑誌掲載記事に関するデータベース構築作業を委託した。

遺稿資料にもとづいた研究は、定期的な研究会開催、国内外の学会発表を通して、広く発信され、多くの研究者、アーティスト、建築家などとの交流を可能にした。荒川 + ギンズの活動がいかなる可能性をもちうるものだったのかを、学際的に探究した。

#### 4. 研究成果

##### (1) デジタルデータベース構築

RDF への業務委託により、荒川 + ギンズの遺稿資料のうち、哲学関連、心理学・医学関連に分類される約 100 箱分の紙面資料をすべてデジタル化し、PDF 形式にて保存、代表者、分担者で共有利用できる体制を構築した。また、荒川 + ギンズの蔵書のうち、欧語書籍についてはリスト化されていたが、日本語書籍は写真データのみが保存されていたので、それをデータ化した。

将来的には RDF が運営するサーバーでこれらのデータを管理し、国内外すべての研究者が閲覧利用できる体制ができるように RDF と協議をつづける。

荒川 + ギンズ東京事務所への業務委託により、同事務所が所蔵する（主に荒川の）書簡（ファックスレターを含む）および掲載誌データベースの構築作業を進めた。デジタル化された書簡資料については、著作権の関係上、一般公開については難しい部分が多いが、今後の研究利用に関しては同事務所と協議をつづけていく。一方、掲載誌（新聞記事、美術館・ギャラリーの図録情報、学術論文を含む）データベースは 2021 年度末現在の情報分まで完成し、「荒川修作 + マドリン・ギンズ 文献検索システム」として一般利用可能な形で web 公開した（サーバー運営は荒川 + ギンズ東京事務所、同事務所、RDF、本プロジェクトの三者協働による制作）。

##### (2) 研究会、国際カンファレンス

5 年間の研究期間に、研究会・国際カンファレンスを 17 回（2017 年度 5 回、2018 年度 4 回、2019 年度 5 回、2020 年度 2 回、2021 年度 1 回）、関西大学等在学術研究所身体論研究班との共催にて開催した。その他、特別シンポジウム、外部講演会、国内外の学会発表等を行った。これらの研究会では、各研究メンバーの研究発表だけでなく、国内外の荒川 + ギンズ研究者を招へいし、積極的な交流を図り、国際的な研究ネットワークの構築に努めた。

国際的な研究成果発表としては、2019 年 6 月 27-29 日オーストラリア Deakin University にて開催された国際会議 Body of Knowledge 2019: Art and Embodied Cognition に、代表者三村、分担者門林岳史、小室弘毅、研究協力者木田真理子（ダンサー、イギリスの Neon Dance による荒川 + ギンズ関連ダンス作品 Puzzle Creature に出演）の 4 人によるパネルセッション Arakawa and Gins Now: Philosophy and Creativity を実施した。さらに 2021 年 4 月 9 日シアトル大学主催 2021 Gendlin Symposium（オンライン開催）にて、代表者三村が研究発表「On the Process-Oriented Thought: Gendlin and Arakawa + Gins」を行った。この発表は、荒川 + ギンズと心理学者ユージン・ジェンドリンの思想的関係を、遺稿資料にもとづいて考察したものである。ジェンドリンの提唱したフォーカシング指向心理療法の研究者や実践者に、荒川 + ギンズの思想を紹介することになり、大きな反響を得た。

5 年間の研究期間の集大成として、第 4 回荒川 + ギンズ国際カンファレンス（AGxKANSAI 2022: Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS）を開催した。会期は 2022 年 3 月 11-15 日の 5 日間、京都芸術大学 studio21 を会場として、対面とオンラインのハイブリッド形式で行った。大会プログラムとして、荒川 + ギンズの哲学、思想、身体論をテーマにした招待講演、対談、研究発表に加え、彼らの芸術活動や建築を中心とした発表、作品展示、ワークショップも実施した。作品展示においては、関西大学 2021 年度教育研究緊急支援経費の助成を受け、荒川 + ギンズ ボトムレス・共身体（1963 年）の再制作を行い、会場内に展示するとともに、その制作過程に関する討議も行った。本カンファレンスの最終的な参加登録者は、347 名（うち海外からの参加者 66 名）コロナ禍により入場制限のもと各日 30 から 60 名ほどの対面参加があった。時差を考慮し、各プログラムはオンラインによるリアルタイムとオンデマンドビデオで配信した。招待講演や展示作品解説ツアーについては、カンファレンス web ページにて日本語・英語にて情報発信している。

##### (3) 出版物

本研究の中間報告として、『22 世紀の荒川修作 + マドリン・ギンズ 天命反転する経験と身体』（三村尚彦・門林岳史共編著、フィルムアート社、2019 年 12 月）を刊行した。本書には、荒川没後、ギンズが単独で執筆し未刊となっている著書『ALIVE FOREVER, NOT IF, BUT WHEN』の草稿内容紹介など、遺稿研究によってはじめて可能になった論考が収められている。

最終的な研究成果として、上記の第 4 回荒川 + ギンズ国際カンファレンスでの口頭発表およびいくつかの招待講演の原稿を取りまとめて、英語書籍として 2022 年度末までに刊行する予定にしている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 1号
2. 論文標題 「イメージする」とは何か--荒川+ギンズ遺稿資料を手がかりにして」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所創立70周年記念論文集	6. 最初と最後の頁 437頁-458頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 54号
2. 論文標題 足で/にランディングすること-荒川+ギンズの「イメージするランディング・サイト」-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 71頁-89頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 37号
2. 論文標題 フッサル時間論の「現在」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現象学年報』日本現象学会編	6. 最初と最後の頁 39頁-49頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 第5号
2. 論文標題 荒川修作+マドリン・ギンズとは何者なのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『須田記念 視覚の現場 第5号』、一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団	6. 最初と最後の頁 38頁-40頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室弘毅	4. 巻 第15号
2. 論文標題 荒川修作の天命反転思想と子ども	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学人間健康学部『人間健康学研究』	6. 最初と最後の頁 19頁-34頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣 諭	4. 巻 55号
2. 論文標題 「性というパフォーマンス(2) 性の語り、共同幻想、同意の現象学」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『白山哲学』	6. 最初と最後の頁 35-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣 諭	4. 巻 35
2. 論文標題 「ありのままの生とインタビュー中心主義の帰趨 「ケアの現象学」の素朴さが映すもの」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『実存思想論集』	6. 最初と最後の頁 53-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷 昌義	4. 巻 48巻8号
2. 論文標題 「二元論の向こう側を探る自然学のプログラム」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 187-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室 弘毅	4. 巻 14号
2. 論文標題 「日本文化とマインドフルネス 腰肚文化と骨盤呼吸によるマインドフルネスワーク」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学人間健康学部『人間健康学研究』	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷昌義	4. 巻 vol.20, no.
2. 論文標題 アフォーダンスからの希望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 pp.136-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 9号
2. 論文標題 フッサールのリサーチプログラム「幾何学の起源」再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際哲学研究 (国際哲学研究センター編)	6. 最初と最後の頁 93-108頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 第五十二輯
2. 論文標題 後期近代における「死にゆく過程」と東西の文化的自己	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 93-107頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史	4. 巻 11
2. 論文標題 マンガ『ゆるキャン 』における写真的 拡張 現実」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『情報科学芸術大学院大学紀要』	6. 最初と最後の頁 104-107頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史 (江上敏哲、谷口正樹と共著)	4. 巻 343号
2. 論文標題 『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『カレントアウェアネス』	6. 最初と最後の頁 2-5頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史	4. 巻 38
2. 論文標題 「表現の不自由展・その後」 何が起きたか/何を引き継ぐか」報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 表象文化論学会ウェブ・ニューズレター 『REPRE』	6. 最初と最後の頁 1-2頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史	4. 巻 2020年1月号
2. 論文標題 「コミュニケーション資本主義に出口はあるか? 伊藤守編『コミュニケーション資本主義と コモンの探求 ポスト・ヒューマン時代のメディア論』書評	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『UP』	6. 最初と最後の頁 34-39頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史	4. 巻 5月臨時増刊号
2. 論文標題 新しい唯物論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 28-32頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史 (平芳裕子、蘆田裕史、牧口千夏、三浦哲哉と共著)	4. 巻 13号
2. 論文標題 共同討議「ファッション批評は可能か？」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『表象』	6. 最初と最後の頁 20-52頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室弘毅	4. 巻 11号
2. 論文標題 「教養」から見る初年次教育とアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 9-20頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 53
2. 論文標題 切り閉じる技術 ARAKAWA+GINSと世界原理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 51-6
2. 論文標題 実装された「泡のモノドロジー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 158-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 47-4
2. 論文標題 終焉の存在論 終わることの困難と魅惑	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 192-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 47-2
2. 論文標題 男性原則の彼岸へ 男の現象学はどこまで可能か？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 202-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 46-17
2. 論文標題 動きすぎるものたちの現象学 ポスト・モダンの申し子とは誰のことか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 39
2. 論文標題 精神科臨床のシステム論的記述の試み - 精神科医の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 111-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 7
2. 論文標題 クラッシャーという現象に何を見るか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教室ツーウェイNEXT	6. 最初と最後の頁 136-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 33
2. 論文標題 八重樫徹著『フッサルにおける価値と実践 善さはいかにして構成されるのか』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実存思想論集	6. 最初と最後の頁 201-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 3254
2. 論文標題 村田沙耶香インタビュー「地球星人」の豊かな可能性描く 最新長編『地球星人』(新潮社)を語る」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 51
2. 論文標題 詩人のFelt Meaning - 荒作、マドリン・ギンズの遺稿研究に向けて -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 79-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 1
2. 論文標題 The Void of Experienced Meaning in Japanese Society: Ambivalent Attitudes toward Traditional Bodily Practices	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Divers Bodies, Diverse Practices: Toward an inclusive Somatics	6. 最初と最後の頁 199-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 Vol.2 No.6
2. 論文標題 BWDプロジェクトが目指すものー日本におけるプロジェクトの歩み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史、増田展大	4. 巻 1月号
2. 論文標題 ロージ・ブライドッティ「批判的ポストヒューマニティーズのための理論的枠組み」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 183-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林岳史、加治屋健司、中島那奈子、三輪仁、星野太	4. 巻 12
2. 論文標題 越境するパフォーマンス - 美術館と劇場の狭間で	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『表象』	6. 最初と最後の頁 18-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室弘毅	4. 巻 4
2. 論文標題 ソマティクスとソマティック心理学をつなぐもの 台湾での経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 VOSS (Voice of Somatics & Somatic Psychology)	6. 最初と最後の頁 14 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室弘毅	4. 巻 11
2. 論文標題 ソマティクスとソマティック心理学をつなぐものとしてのスピリチュアリティ 台湾文化と日本文化の比較を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間健康学研究	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 5
2. 論文標題 科学の三次元空間モデルと『一人称の科学』 武藤論文「対人援助学の方法論としての『二人称の科学』」へのコメント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 対人援助学研究	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 4
2. 論文標題 G.R.A.C.E.ーコンパッションに基づくケアのためのトレーニング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer Board Square	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川治彦	4. 巻 4
2. 論文標題 ジョアン・ハリファックス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cancer Board Square	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷昌義	4. 巻 15
2. 論文標題 「知覚の哲学」は知覚経験の本性に迫れるか 小草泰氏と葛谷潤氏への応答	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 78-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 12
2. 論文標題 経験の記述：働きの存在論(2) オートポイエーシスにおける二重の自己	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エコ・フィロソフィ研究	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣諭	4. 巻 3
2. 論文標題 臨床空間再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神経現象学リハビリテーション研究	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村尚彦	4. 巻 50
2. 論文標題 「建築する身体」と「ランディング・サイト」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 69-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計111件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 平板化あるいは拡張? 『建築する身体』を読むことの可能性
3. 学会等名 AGxKANSAI 2022 Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 現象学 x ゲシュタルト x 身体性
3. 学会等名 ゲシュタルトネットワーク関西
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 フェルトセンスとシンボルの作用
3. 学会等名 フォーカシングin甲子園2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 身体が創造する意味： する身体
3. 学会等名 京都芸術大学大学院芸術文化論特論
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 フォーカシングと認知神経リハビリテーション
3. 学会等名 第21回認知神経リハビリテーション学会学術集会、認知神経リハビリテーション学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 現象学および哲学的身体論の概説
3. 学会等名 認知の時間、認知神経リハビリテーション学会オンラインセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 On the Process-Oriented Thought: Gendlin and Arakawa + Gins
3. 学会等名 Gendlin Symposium、Seattle University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 “TV Documentary You are... and the Media Ecology of 1960s Tokyo,”
3. 学会等名 Collaborative Cataloging Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 ポスト の思想ーポストヒューマンの後に誰が来るのか？
3. 学会等名 成城大学グローバル研究センター (連続シンポジウム「ポストヒューマニティ時代の身体とジェンダー/セクシュアリティ」第五回) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 ビデオアートにおける身体/性、そしてパーソナルな次元
3. 学会等名 京都国立近代美術館 (ピピロッティ・リスト展「Your Eye is My Island あなたの眼はわたしの島」展記念講演会) (招待講演)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 To Not Die
3. 学会等名 AGxKANSAI 2022: Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 肉体の分解としての死：九相図と藤原辰史をてがかりに
3. 学会等名 第4回廻りの地熊野における死と再生 テーマ：死を想う
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 "A Long Way to Reversible Destiny: Some Suggestions from the Ecological Perspective,"
3. 学会等名 AGxKANSAI 2022, Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 知覚(経験)の哲学における実在論と観念論 世紀転換期における多様な発想
3. 学会等名 世紀転換期の英米哲学における観念論と実在論 現代哲学のバックグラウンドの探究」定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 Against the Fear of Death: Arakawa 's Quest for Immortality and Benatar 's Anti-Natalism
3. 学会等名 AG x KANSAI 2022 : Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 知と病についての哲学 病識概念の射程
3. 学会等名 第四回日本理学療法哲学・倫理学研究会フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 いまを生きるマインドフルネス
3. 学会等名 NHK文化センター
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 「天命反転建築における使用法の使用法」(ワークショップ)
3. 学会等名 AGxKANSAI 2022 Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 "New Sensory Gravity' and the Mechanism of Losing Balance"
3. 学会等名 GxKANSAI 2022 Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 トランスパーソナルな身体 西平直の身心論
3. 学会等名 西平直先生 京都大学退職記念研究会 「西平思想の研究」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 2 2 世紀の身体論とその経験ー荒川 + ギンズ建築における使用法とその実践ー
3. 学会等名 東西学術研究所創立七〇周年記念シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 実践！マインドフルネス入門 - 呼吸・歩行・日常動作 -
3. 学会等名 毎日文化センター梅田
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 生き方としてのマインドフルネス
3. 学会等名 二〇二一年度堺市と関西大学との地域連携講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 暮らしに活かす瞑想講座
3. 学会等名 大阪府堺市・東洋ビル会議室
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 はじめてのマインドフルライフ
3. 学会等名 二〇二一年度堺市と関西大学との地域連携講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 生き方としてのマインドフルネス
3. 学会等名 毎日文化センター
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村 尚彦
2. 発表標題 「文献研究から学際的研究への展開」 哲学と諸学問における「間文化性」 - 専門的研究からトランスディシプリナリーな研究への展開 - 」
3. 学会等名 立命館大学人文科学研究所ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三村 尚彦
2. 発表標題 「イメージの力～イメージと身体の相互作用～」
3. 学会等名 フォーカシングin甲子園2020（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門林 岳史
2. 発表標題 シンポジウム「映像アーカイブの実践と未来」
3. 学会等名 日本映像学会第46回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門林 岳史
2. 発表標題 シンポジウム「コロナ禍の文化と表現」
3. 学会等名 表象文化論学会オンライン研究フォーラム2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村川 治彦
2. 発表標題 「エサレンから熊野へ：からだ 自然 いのちに根ざしたスピリチュアルな文化への変容」
3. 学会等名 日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会第20回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣 諭
2. 発表標題 坂井志織著 『しびれている身体で生きる』書評
3. 学会等名 坂井志織著 『しびれている身体で生きる』合評会@東京都立大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣 諭
2. 発表標題 『22世紀の荒川修作 + マドリン・ギ ンズ 天命反転する経験と身体』合評会
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所 第2回 研究例会【身体論研究班】
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲垣 諭
2. 発表標題 「性の現実性と変容 性はどのように語られてきたか？」
3. 学会等名 国際哲学研究センター「事象の世界地図に向けて」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 「生き方としてのマインドフルネス」
3. 学会等名 2020年度堺市と関西大学との地域連携講座
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 「荒川修作の天命反転思想と重力」
3. 学会等名 日本トランスパーソナル心理学/精神医学会第20回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 「自然と調和する瞑想講座」
3. 学会等名 Hive terrace@堺市都市緑化センター（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ 天命反転する経験と身体』台評会
3. 学会等名 「関西大学東西学術研究所第2回研究例会【身体論研究班】
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 「暮らしに活かす瞑想講座」
3. 学会等名 Hive terrace@堺市東洋ビル(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室 弘毅
2. 発表標題 「健康サポート薬局と地域コミュニティサロンの連携でフレイル予防!!」
3. 学会等名 第4回日本老年薬学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 コーデノロジストとしての荒川+ギンズ
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所 第11回研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 荒川修作+マドリン・ギンズの現在：哲学と創造性
3. 学会等名 立命館大学人文科学研究所ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 感じることはなぜ大切なのか？ ジェンドリン哲学から考える
3. 学会等名 甲子園フォーカシング研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 知の総合が目指すべきものは？
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所特別シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 荒川＋ギンズ研究と遺稿アーカイブ構築
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所国際シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 身体性が担う二重の機能
3. 学会等名 日本精神分析的学心理療法フォーラム第8回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 The Potential of the Gendlin Philosophy
3. 学会等名 Meeting for Focusing Practitioners in Melbourne (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 The Creativity of the bodily feeling: Arakawa+Gins and Gendlin
3. 学会等名 International Conference: Body of Knowledge: Art and Embodied Cognition, Deakin University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 「幾何学の起源」再考
3. 学会等名 第29回白山哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 セラピストのための現象学 体験世界を探る
3. 学会等名 第5回 肢体不自由療育セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 22世紀身体論 とメディア・テクノロジー
3. 学会等名 情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 芸術特論C (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 円環という罫 技術と行為のインテンショナル・アーク
3. 学会等名 第20回認知神経リハビリテーション学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 「荒川+ギンズ が 「死なないために」
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 シンポジウム「メディア技術がもたらす公共圏」
3. 学会等名 岐阜おおがきビエンナーレ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 災害とともに生きる-台湾と日本における映像記録運動の現在
3. 学会等名 山形国際ドキュメンタリー映画祭2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 “ARAKAWA and Gins Now: Philosophy and Creativity,”
3. 学会等名 International Conference: Body of Knowledge: Art and Embodied Cognition, Deakin University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 荒川修作とマドリン・ギンズの現在-哲学と創造性
3. 学会等名 立命館大学人文科学研究所ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 “Digital Indexicality,”
3. 学会等名 International Conference: Post-Media Ecologies in Asia, Beijing Normal University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 From Theories of Somatic Psychologies and Body Works
3. 学会等名 International Conference: Body of Knowledge: Art and Embodied Cognition, Deakin University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 人間の成長と教育 組織力向上とリーダーシップ
3. 学会等名 パナソニック株式会社人材開発カンパニー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転+マインドフルネス! 荒川+ギンズの天命反転思想を体験から読み解く
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 生き方としてのマインドフルネス
3. 学会等名 堺市と関西大学との地域連携講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 荒川修作+マドリン・ギンズの現在: 哲学と創造性 第3部 ソマティクス+ソマティック心理学と教育学の見地から」
3. 学会等名 立命館大学人文科学研究所ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 マインドフルネスと修養
3. 学会等名 日本マインドフルネス学会第六回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 姿勢と呼吸の自然と腰肚文化
3. 学会等名 日本マインドフルネス学会第六回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 ココロとカラダを癒すマインドフルネス
3. 学会等名 明石コミュニティ創造協会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転する身体の教育 荒川修作の天命反転思想を読み解く
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会第三回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 精神分析的な心理療法における「症状」のゆくえ. 心理療法家と 哲学者の対話(2)
3. 学会等名 日本精神分析的な心理療法フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 「ジェンドリンの理論と実践 フォーカシング理論は説明的記述なのか？」
3. 学会等名 フォーカシングin甲子園、甲子園フォーカシング研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 どうして哲学? AIという状況を感じる
3. 学会等名 AI x 哲学、毎日文化センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 行動に還る 身体論の展開と身体性の意味
3. 学会等名 日本科学哲学会第51回大会シンポジウム「行動に還る 感情・表情・身体動作」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 生態学的身体論 日常を生きるスキルを支える身体の仕組み
3. 学会等名 アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「「わざ」の人類学的研究 - 技術、身体、環境」2018年度第3回研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 22世紀のAIの哲学 人間本性論から資源本性論への方向転換
3. 学会等名 JST/RISTEX「人と情報のエコシステム」研究開発領域プロジェクト「人と情報のテクノロジーの共生のための人工知能の哲学2.0の構築」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 新たな宗教ツーリズムとしての熊野の可能性
3. 学会等名 『甦りの地：熊野』における死と再生』 和歌山県田辺市世界遺産熊野本宮館
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 GRACE で、身体から傾聴を支える
3. 学会等名 日本ソマティック心理学協会第5回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 新しいからだを作り出す体験～体験としての天命反転住宅～
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転+マインドフルネス - 開かれた新たな可能性 -
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転と子育て - 親にとっての天命反転 -
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 笑いと身体を教養する
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転+マインドフルネス
3. 学会等名 養老アートピクニック2018「養老天命反転地で会いましょう」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 能・禪・ボディワークからみる『間（あはひ）の世界』
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小室弘毅
2. 発表標題 天命反転住宅で子育てについて語る
3. 学会等名 三鷹天命反転住宅企画
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 シンポジウム「ファッション批評は可能か？」(司会担当)
3. 学会等名 表象文化論学会第13回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門林岳史、施井泰平、伊東謙介
2. 発表標題 「アート×ブロックチェーン」
3. 学会等名 富士山展2.0 関連トーク 現代美術製作所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 「東日本大震災後の表現とメディア」
3. 学会等名 沖縄県立芸術大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 Rosalind Krauss's 'Post-Medium Condition' Revisited: From the Standpoint of Film and Media Studies
3. 学会等名 International Conference: Towards Post-Media Theories in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 パフォーマンスとノとしての展示
3. 学会等名 表象文化論学会第12回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 門林岳史
2. 発表標題 Galapagos Media: Japanese Media in the Age of Global Capitalism
3. 学会等名 East Asian Media Studies Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 内受容感覚と気づき 認知神経科学の知見に基づく 身 概念の再考
3. 学会等名 第58回日本心身医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 マインドフルな身体と身体化された心：経験に戻る二つの道筋
3. 学会等名 第1回ソマティック関西フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 Religion of No Religion としての新靈性運動
3. 学会等名 日本宗教学会第72回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 交差し、進展する体験の流れ- ウィリアム・ジェームズからジェンドリンへ
3. 学会等名 第1回アジアフォーカシング国際会議（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 アメリカにおける身心変容技法の変遷史 - 欧州、東アジアとの交流を軸に -
3. 学会等名 第61回身心変容技法研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 ソマティクスの新たな展開 - からだを基盤にしたコミュニティ作り
3. 学会等名 第五回関西タッチケアフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 身心変容技法と知のあり方
3. 学会等名 人体科学会第27回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村川治彦
2. 発表標題 トランスパーソナル、スピリチュアリティ、そしてマインドフルネス 流行の変遷のなかで置き去りにされてきたもの
3. 学会等名 日本トランスパーソナル心理学 / 精神医学会第18回学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 22世紀の身体論 荒川 + ギンズとともに 受容し変化する能力としての主体性
3. 学会等名 表象文化論学会第12回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 What does the Ecological Approach Learn from Pragmatism: William James' View of Percept and Concept
3. 学会等名 19th International Conference on Perception and Action (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 環境にローンを返そう エコロジカル・アプローチの形而上学（関係のサイエンスとアート 人間と環境の原理を考える）
3. 学会等名 九州大学人間環境学府他分野連携「遊びと洗練」第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 ネオ・ゲシュタルティズム（高次モード知覚説）に託された希望 知覚の哲学の行く末を見すえて
3. 学会等名 日本科学基礎論学会 秋の研究例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 ギブソン革命の肝試し 受動する心のはたらきとアフォーダンスの存在論
3. 学会等名 心の科学の基礎論研究会 第81回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 カフカ・プロジェクト 上演に関するディスカッション
3. 学会等名 カフカ・プロジェクト
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 臨床空間再考
3. 学会等名 第9回人間再生研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 二重の自己 - 個体と変容 -
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所第9回研究例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲垣諭
2. 発表標題 切り閉じという技術 - 荒川・ギンズの手続き的知の試み
3. 学会等名 表象文化論学会第12回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 The Potential of the Gendlin Philosophy
3. 学会等名 Kaleidoscoping Into the Implicit: Gene Gendlin ' s Philosophy ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 フォーカシング理論とジェンドリン哲学の相違点
3. 学会等名 フォーカシングin甲子園（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 フェルトセンスとシンボルの機能的関係 - そのとき何が起きているのか -
3. 学会等名 第36回日本人間性心理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 What is the Potential of the Gendlin Philosophy?
3. 学会等名 第1回アジアフォーカシング国際会議（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 リハビリを哲学で考える - 脳でイメージする体の動き -
3. 学会等名 第27回神戸市西区主任ケアマネジャー連絡会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三村尚彦
2. 発表標題 アラカワ+ギンズと体験過程理論 - 意味創造の基盤について -
3. 学会等名 表象文化論学会第12回研究大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 門林 岳史、竹崎 一真、山本 敦久、杉山 文野、岡田 桂、渡部 麻衣子、標葉 靖子、隠岐 さや香、久保 友香、関根 麻里恵、田中 東子、重田 園江、山本 由美子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 ポストヒューマン・スタディーズへの招待	

1. 著者名 染谷昌義、床呂 郁哉ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 わざの人類学	

1. 著者名 河本 英夫、稲垣諭	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 272
3. 書名 創発と危機のデッサン	

1. 著者名 門林岳史、増田 展大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 295
3. 書名 クリティカル・ワード メディア論	

1. 著者名 黒田 研二、狭間 香代子、福田 公教、西川 知亨、村川 治彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 186
3. 書名 ポスト・ソーシャル時代の福祉実践	

1. 著者名 河本 英夫、稲垣 諭	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 272
3. 書名 見えない世界を可視化する「哲学地図」	

1. 著者名 河本 英夫、武内 大、稲垣 諭	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 272
3. 書名 現象学 未来からの光芒	

1. 著者名 伊藤 守、門林岳史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 402
3. 書名 ポストメディア・セオリーズ	

1. 著者名 三村 尚彦、門林 岳史、染谷昌義、村川治彦、稲垣諭、小室弘毅ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 307頁
3. 書名 22世紀の荒川修作 + マドリン・ギンズ	

1. 著者名 小室弘毅・齋藤智哉編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 230頁
3. 書名 ワークで学ぶ教育の方法と技術	

1. 著者名 小室弘毅（共著）、竹尾和子・井藤元編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 268頁
3. 書名 ワークで学ぶ学校カウンセリング	

1. 著者名 門林岳史(共著)、坂本泰宏、田中純、竹峰義和編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 550頁
3. 書名 イメージ学の現在 ヴァールブルクから神経系イメージ学へ	

1. 著者名 稲垣諭、河本英夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 256
3. 書名 iHuman AI時代の有機体-人間-機械	

1. 著者名 稲垣諭	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 285
3. 書名 壊れながら立ち上がり続ける 個の変容の哲学	

1. 著者名 染谷昌義、細田直哉、野中哲士	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 身体とアフォーダンス ギブソン『生態学的知覚システム』から読み解く	

1. 著者名 尾崎博美、井藤元、小室弘毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 ワークで学ぶ教育課程論	

1. 著者名 門林岳史（監訳者）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 352
3. 書名 ロージ・ブライドッティ『ポストヒューマン - - 新しい人文学に向けて』	

1. 著者名 染谷昌義、信原幸弘 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 301
3. 書名 ワードマップ 心の哲学	

1. 著者名 河本英夫、稲垣諭	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 哲学のメタモルフォーゼ	

1. 著者名 門林岳史、谷島貫太・松本健太郎編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 記録と記憶のメディア論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村川 治彦 (Murakawa Haruhiko) (20527105)	関西大学・人間健康学部・教授  (34416)	
研究分担者	小室 弘毅 (Komura Hiroki) (30551709)	関西大学・人間健康学部・准教授  (34416)	
研究分担者	門林 岳史 (Kadobayashi Takeshi) (60396835)	関西大学・文学部・教授  (34416)	
研究分担者	染谷 昌義 (Someya Masayoshi) (60422367)	高千穂大学・人間科学部・教授  (32637)	
研究分担者	稲垣 諭 (Inagaki Satoshi) (80449256)	東洋大学・文学部・教授  (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 AGxKANSAI 2022 Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------